

科目	「問3. 授業を受けた上で、自ら関連項目について文献やインターネットなどで調査し、新たな思考を展開した。さらにその思考に基づき行動した。」及び「問15. あなたはこの授業に毎回出席しましたか」から、学生の受講態度についてどのようにお考えですか。選択肢からお選びください。また、改善案があればお書きください。	学生の受講態度
Sp	(無記入)	良い
Sp	実技形式の講義であるため、余分なプリントは配らず、その時限に展開する講義内容を理解できるようにしたため、自宅学習が少なかったと考える。出席率に関しては、概ね出席状況と合致し、また受講態度も良好な学生が多かった。	良い
Sp	もう少し健康や体力についての知識を取り入れた授業にする。	非常に良い
Sp	もう少し問題点を指摘できれば学生が深く考えられたと思うので改善したい。	良い
Sp	(無記入)	良い
Sp	実技科目については、特に「なに」をするのかでなく「なぜ」するのかの観点から考えさせ関心をもたせ(動機づけ)、講義内における知識・技能の修得に留まらず、講義外(日常生活)において実践し新たな思考を展開しながら学習していけるようにより一層の創意工夫を図り、授業の改善に努めていきたい。	良い
Sp	(無記入)	非常に良い

科目	「問10. この授業の教育目標を達成できたと思いますか」にかかわって、この授業のために設定された教育目標が、どの程度達成できましたか。選択肢からお選びください。また、改善案があればお書きください。	目標の達成度
Sp	(無記入)	達成できた
Sp	スポーツⅠでは、講義の半分では健康維持増進のためのトレーニングを学習し、もう半分では、自らの余暇時間の過ごし方の選択肢の一つにスポーツ活動を取り入れられる様にスポーツの基礎技術の習得や学生間の相互交流を目的とした。しかしながら、基礎技術の習得に関しては、授業目標に到達できなかった学生もいたため、基礎技術の習得のためにより時間を割かねばならないを考える。	普通
Sp	学生とのコミュニケーションを増やす。	十分達成できた
Sp	(無記入)	達成できた
Sp	スポーツⅡでは、選択種目の専門的理解を目標に、スポーツ固有の専門技術の習得のための練習、ゲームでの実践を行った。概ね「強くそう思う」、「ややそう思う」に回答しているが、「どちらとも言えない」以下の回答も若干あるため、学生の理解に応じた難易度の変更も必要であると考え。	普通
Sp	(無記入)	達成できた
Sp	特になし。	達成できた
Sp	自習活動を活性化させるための的確な課題設定を探究する必要がある。	普通

科目	「問11. 授業の難易度」、「問12. 一回当たりで扱われる授業内容の量」、及び「問13. この授業のための週当たりの学習時間」に対する学生による評価をみて、どのように考えられますか。また、改善案があればお書きください。
Sp	・授業の難易度、授業内容の量、ともに80%以上の高い割合でちょうど良かったと答えており、担当者の計画どおりの指導で良いと思われる。
Sp	授業の難易度に関しては、「ちょうどいい」と回答した学生がほとんどであり、若干名が「易しすぎる」、「難しい」であった。今回はラケットスポーツ(テニスまたは卓球)を取り入れたため、ラケットスポーツの特性を理解するために時間を配分した。そのため、理解している学生にとっては易しすぎたと考えるが、本講義の目的からすると、授業難易度は適正であったと考える。 一回当たりで扱われる授業内容の量に関しては、「一つのコマで1つの基礎技術の理解」を目的とした。学生の回答ではほとんどが「ちょうどいい」と回答したため、適切であったと考えるが、理解の早い学生にはより難易度の高い課題を提供する必要があると考える。 この授業のための週当たりの学習時間では、講義内での課題の達成を目的としたため、講義外での学習時間がなかったものとする。
Sp	体力差が男女では大きい場合が多いため、そこをもう少し改善しながら運動量を調整したい。
Sp	どちらの授業とも難易度に関してはちょうどいいという回答が多く得られたの良かった。量に関してはちょうどいいという回答が多く得られたが、なかには量が少ないという学生もいたので改善していきたい。
Sp	授業の難易度に関しては、「ちょうどいい」と回答した学生がほとんどであり、若干名が「易しすぎる」、「難しい」であった。トレーニングでは部活などで行っている学生にとっては当たり前の内容であるが、普段トレーニングを行わない学生にとっては「ちょうど良い」と思われる難易度であったと考える。より深く理解したい学生にはさらなる課題が必要である。 バドミントンでは、部活で実践してきた学生には易しすぎる内容であった。しかし、バドミントンは学校体育ではあまり触れることのないスポーツであるため、基礎から展開する必要があると考える。そのため、難易度としては概ね適切であったと考える。 一回当たりで扱われる授業内容の量では、ほぼ「ちょうど良い」であったことから、継続して行きたいと考える。 この授業のための週当たりの学習時間では、講義時間内に課題を終わらせられる様に展開した為、講義時間外では学習時間がほとんどなかったと考える。また、トレーニングやバドミントンは授業時間外で実施するには設備が必要であるため、ハード面の影響もあると考える。
Sp	・授業の難易度、授業内容の量、ともに80%以上の高い割合でちょうど良かったと答えており、担当者の計画どおりの指導で良かったと思われる。
Sp	・実技科目においては、一般的に授業の難易度は技能面、授業の内容の量は体力面に影響される傾向があるため「ちょうどいい」に落ち着くような授業内容構成となりやすいと考える。よって、同じ講義科目でもクラスによっては難易度(技能面)で「易しすぎる」「易しい」の割合が多くなったり、またこの授業のための週あたりの学習時間では実技時間が含まれるため体力面も影響し「1時間以内」がほとんどであるが「1時間以上」が多いクラスのとときもある。改善策としては、習熟度別(経験年数)や体力を反映したクラス編成をすることも大切であるが、授業(実技)の内容とあわせて教育目標をしっかりと学生に理解させることがもっとも重要だと考える。
Sp	もう少し増やしたい。

科目	どのような基準で学業成績の結果を出されましたか。提出された成績評価も踏まえてご記入ください。
Sp	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲, 関心, 態度40% – 器具の準備, 片付けも含め積極性, 仲間との協調性 ・出欠席等参加状況40% – 1時間の欠席ごとに減点 ・技術能力20% – チャレンジ表結果, スキルテスト, 試合結果
Sp	<p>成績の基準では, 1番は, 「受講態度」とした。これは2番目の基礎技術の習得のためにどの程度講義に積極的に参加したかを観察評価した。これを成績評価に対して1番重要視した理由として, 技術の習得には個人差が大きく生じるためである。練習しても上達が遅い者が現れるのがスポーツの特徴であると考え。従来の「出来る子は成績がいい。出来ない子は成績が悪い」という評価概念では, 出来ない子のスポーツ嫌いを助長してしまうと考え。したがって, 私の講義では, 受講態度を最重要視している。受講態度には, 学習時間, 授業準備や服装も含まれる。</p> <p>2番は, 「基礎技術の向上」である。これは, 1番の理由のみでは, 「出来る子」のやる気がなくなるため, 受講者ないでの技術の相対評価も必要であると考えた。以上2点から成績を評価した。</p>
Sp	積極的な授業への参加度を重視しながら, 技術的な要素を含めた総合評価。
Sp	授業への積極性・協調性と技術の上達を基準に学業成績の結果を出した。
Sp	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲, 関心, 態度40% – 授業内容に対する取り組み, 積極性, 協調性 ・出欠席等参加状況40% – 1時間の欠席ごとに減点 ・技術, 能力20% – チャレンジ表, スキルテスト, 理解度, 試合結果
Sp	・シラバスの授業目標と評価基準に基づき, 独自に作成した詳細な評価項目を点数化し, 客観的なものさしで絶対評価により学業成績を作成した。
Sp	運動の活動量、技能到達、探究態度

科目	授業改善について、独自に工夫されていることについてお書きください。
Sp	毎時間個々の学生の技術目標を設定し達成感を味わせる。
Sp	スポーツ種目であるため、技術の上達度は個人差が現れる。したがって、いわゆる「できない子」や、技術練習をした子には復習や練習の時間を設けられる様に、授業の時間や場所の配分に配慮した(試合の最中に基礎技術の復習や練習ができるようにスペースを設けるなど)
Sp	とにかくたくさん学生とコミュニケーションを取ることで、個々人の状況をつかむようにしている。
Sp	自主性を出させるために、なるべく学生たちの意見を取り入れながら授業を行った。学生たちと考えることによって独自のルールなどを設けて行うことができた。
Sp	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップ、指導力を発揮させる場を設定する。 ・毎時間、技術目標を設定し、意欲的に取り組ませる。 ・試合の進行・運営を学生自ら参加させる。
Sp	<ul style="list-style-type: none"> ・講義開始時間を厳守し、1回目の講義から学生に対してなぜ「遅刻」をしていけないのか、そのことでどういう結果になるかなど、社会の一般常識を踏まえ説明して聞かせ、やむをえない理由の遅刻(交通途絶以外も含め)の具体的な内容を明示しその理解を深めさせ、学生が自己都合で遅刻することのないよう、さらには欠席することのないよう取り組んでいる。
Sp	学生とのコミュニケーションから、学生の興味、関心、要求の声を直接聞くようにしている。